

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年5月25日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No.15】

## JR総連 北海道労組への革マル浸透の危険は高い！

前号で紹介した「連合型労働運動に抗して」には「海道錨」名で「小田裕司君へ」とする同氏を弾劾する手紙と「柴田光治君へ」との文章が掲載されている。この中で柴田氏は「宇和さん」と呼ばれているが、同氏は小田氏の前任で北海道出身のJR総連委員長だ。JR総連のトップは、少なくとも二代続けて秘密黨員名を持つ革マル派メンバーである可能性が高いといえる。なお、北海道といえば、2001年3月19日の革マル派機関紙「解放」(1660号)には「革マル派北海道地方委員会 田沢正」名による「木暮よ、現場労働者のうめき声が聞こえぬか？」との驚くべき「公開書簡」が掲載された。その一部を紹介したい。

- ・ 木暮よ、浅虫よ、戸山よ。鉄道に働く者が組合員か非組合員かでわけへだてをし、現場労働者の生死にかかわる安全問題を無視できないではないか。
- ・ 木暮よ、浅虫よ、戸山よ！雪がとけたらまたゴルフ三昧かよ。
- ・ ハグレ鳥になった木暮よ。反スターリン主義運動の大道から、どこまではぐれていけば目がさめるのか。革マル派は「解党」をつきつけられる」などというような、ハグレ鳥みたいな余計なことをいうべきではない。
- ・ 私はナグモや大方、黒潮のテープレコーダーにすぎません」などと臆面もなく、おのれの没主体ぶりを木暮よ、君が語っていたのは1994年の春だったな。
- ・ 木暮よ。組合員たちの<アタマ>を破壊しているだけでなく、お前の<アタマ>も確実に破壊されてきていることに気づくべきなのだ。もはや手遅れかもしれないが、しかし、われわれは呼びかける。「OUR」誌2001年2月号のあの駄文はなんだ。

### JR北海道労組佐々木委員長は黨員名「木暮」の革マル派メンバーか！

この「書簡」を読むと、革マル派が「木暮」なる同志の言動を叱責していると読めるが、この「木暮氏」はJR総連・北海道労組の現職委員長である佐々木信正氏とみて間違いはない。佐々木氏は2001年1月25日付「公益企業レポート」(3,160号)のインタビューで革マル派について触れ、「(革マル派は)良識ある人々から早晚、『解党』を突きつけられるのではないのでしょうか」と述べている。また「OUR」誌とは北海道労組の機関誌だが、その2月号には、革マル派が「駄文」と呼ぶ「心の瞳で読むコラム」との佐々木氏の文章が掲載されている。これらは「書簡」の指摘にぴったり符合する。

「木暮氏」は、1994年春に「私はナグモや大方、黒潮のテープレコーダーにすぎません」と語ったそうだが「ナグモや大方、黒潮」とは、先にみた、JR労研中央幹事会事務局とされる坂入氏、船戸氏、田岡氏らの黨員名だろう。北海道労組の現職委員長の佐々木信正氏は、「木暮」との秘密黨員名を持つ革マル派メンバーである可能性がきわめて高いのだ！「書簡」にある「浅虫」「戸山」も北海道関係者だろうか。なお、北海道労組機関紙によれば、「JR東労組を良くする会」作成の「JR革マル派リスト」に、同労組出身のJR総連の役員関係者では小田氏(前委員長)、鎌田寛司氏(書記長)、淵上進栄氏(政策部長)、武川隆二氏(会計監査)の名前が挙がり、裁判の原告になっているという。検証すればするほど、北海道労組への革マル派浸透の疑いが高まってくるが、その真実や如何に...！